

ミニ・パブリックスの議論にみるトランジションの可能性

○松浦正浩(明治大学)

1. 研究の背景

昨今、世界規模では気候変動、市場経済のグローバル化、国内では人口減少や高齢化など、大規模かつ超長期の課題に対応できるガバナンスが求められている。他方、複雑に入り組んだ社会経済システムに係るこれらの課題の解決は、個別のステークホルダーの努力では不可能であるとともに、不確実性も高く、ステークホルダーの数も非常に多いことから、解決が困難な集合行為問題とみなすこともできる。そのとき、各ステークホルダーの視点に立つと、これらの課題に対する人間の無力感から、厭世観、冷笑主義が社会に広まることも推測される。しかし、これらの課題を乗り越えなければ人類社会は持続可能(sustainable)ではない。大規模かつ超長期の課題も自分たちの努力で乗り越えられるという楽観主義、有能感の回復(empowerment)が重要である。

その一つの手段として、ミニ・パブリックスが機能しうるのではないだろうか。

大規模かつ超長期の課題への対応を検討するひとつの視座として Geels らによる Multi Level Perspective(MLP)が挙げられる¹。MLP は 3 層構造で、マクロレベル(上層)に超長期課題、メゾレベル(中層)に社会経済システム、ミクロレベル(下層)に個人の行動を位置づける。各階層間で相互作用があるものの、マクロレベルの変容(e.g., 気候変動の深刻化)にメゾレベルが追随せず、従来の社会経済システムを維持しようとするためレベル間に摩擦が生じて持続可能性を貶めるというのが MLP の指摘である。そして、持続可能性を高めるために、メゾレベルの適切なトランジション(transition: 移行・変革)を加速させる必要性が Loorbach などにより指摘されている²。

大規模かつ超長期の課題を題材としたミニ・パブリックスの実践は、ミクロレベルの個人を巻き込み、マクロレベルの課題を直視させることで、結果として、メゾレベルにおける適切なトランジションの必要性を確認する機会となるのではないだろうか。またマクロレベルの課題とミクロレベルの個人との間に存在するギャップを埋める手段として、メゾレベルの社会経済システムのトランジションを自らが参加する議論を通じて発見させることで、大規模かつ超長期の課題も乗り越えられるという有能感の回復に寄与するのではないだろうか。

2. 分析概要

本研究は上記の問題意識のもと、2019 年 3 月 2～3 日に北海道大学において開催された「脱炭素社会への転換と生活の質に関する市民パネル」の記録を分析する。具体的な分析対象は、1 日目の自己紹介、グループ別評議(1)、2 日目のグループ別評議(2)の一般参加者の発言(書き起こしデータ)である。

分析の枠組みとして、MLP を利用し、発言におけるマクロ・メゾ・ミクロそれぞれのレベルに対応する表現を確認し、時系列でその変化を見る(表1)。本研究では、一般参加者が市民パネルにおける議論を通じてメゾレベルにおけるトランジションの必要性を認識したと想定し、メゾレベルに対応する

¹ Geels, F. (2002). "Technological transitions as evolutionary reconfiguration processes" Research Policy, 31(8-9), pp. 1257-1274

² Loorbach, D. (2010). "Transition Management for Sustainable Development" Governance, 23(1), pp. 161-183

表 1：MLP に基づく分析の枠組み

レベル	表現の例	仮説	
		議論の初期	議論の終盤
マクロ	気候変動，国際的	与えられた課題	与えられた課題
メゾ	政策，税，産業構造	(言及が 少ない) 無力感	対応（媒介）手段 としての言及
ミクロ	節電，節約	個人レベルでの 対応	メゾレベルへの はたらきかけ

表現が，自己紹介などの早い段階では少ないものの 2 日目のグループ別評議に向けて増加することを仮説とする。また，有能感の回復という観点から，否定的な

自己言及(e.g.,「自分にはわからない」)も減少していくことも仮説とする。

3. 分析結果の概要

第一に，メゾレベルへの言及³であるが，終盤に向けて明らかに言及の増加がみられる(表2)。社会経済システムのトランジションによって気候変動に対応する必要をミニ・パブリックスを通じて体験学習したと思われる。特にグループ別評議(2)での増加が顕著であるが，これは 1 日目終了後に各参加者に宿題として，提言に盛り込むべき記述を検討してきてもらったことが影響しているかもしれない。具体的な対策を検討するうえで，メゾレベルの制度への言及が必要不可欠となり，結果として 2 日目のグループ別評議(2)で多く言及されることになったとも考えられる。

第二に，否定的な自己言及⁴については，減少傾向が確認された(表3)。しかし自己紹介の時間に自己言及が多く，その後に減少するのは当然かもしれない。むしろ，グループ間の相違が興味深い。グループ1は自己紹介時に否定的な自己言及が少ないものの，評議に入ってから対立的な議論が発生し結果として対立を収束させるための否定的な自己言及が増えたのと対照的に，グループ3は自己紹介時に同様の言及が多いものの，評議では対立的な議論にならずそのような言及は見られない。予稿提出時には十分な分析ができていないが，むしろ否定的な自己言及よりも，個人レベルでの対応(e.g., 家庭での節電)への言及が終盤に向けて減少しているように見受けられる。年次研究大会当日までには分析を終えるので当日の発表を待たれたい。

4. 最後に

発言内容の分析を通して，ミニ・パブリックスへの参加を通じて参加者が大規模かつ超長期の課題に対して社会経済システムのトランジションの必要性を理解するとともに，自らが参画して社会経済システムのトランジションを担う有能感を得る機会を一般市民に与える可能性が明らかになった。しかし，今回の実験の参加者は 18 名であり，母集団とした札幌圏の人口の 0.0007%に過ぎない。気候変動に対する人間社会の持続可能性を本当に高めるためには，同等の機能を有するイベントを，今回のミニ・パブリックス社会実験よりもかなり大規模で展開する必要があるだろう。

表 2：メゾレベルへの言及回数

自己紹介	評議(1)	評議(2)
6	33	211

表 3：否定的な自己言及の回数

グループ	自己紹介	評議(1)	評議(2)
1	2	6	3
2	6	0	1
3	17	0	3

³ 以下の単語への言及回数をカウントした：政府，制度，システム，政策，法律，規制，産業，雇用，税，補助金，教育，メディア，交通，インフラ，防災

⁴ 自らの能力を否定する発言(「分からない」，「知らない」など)の回数をカウントした

ミニ・パブリックスの議論にみるト ランジションの可能性

松浦正浩, Ph.D.
明治大学専門職大学院
ガバナンス研究科(公共政策大学院)

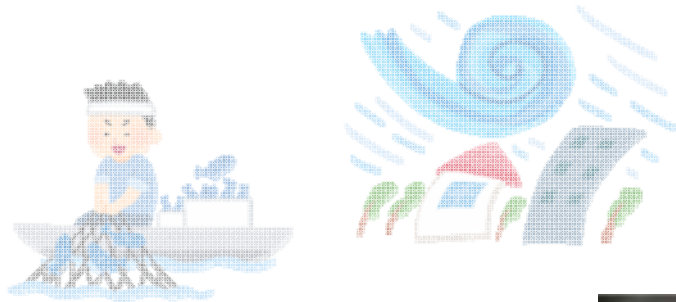


明治大学
MEIJI UNIVERSITY



(きょう14時半の地球:気象庁気象衛星)

地球温暖化



あなたの 行動・選択

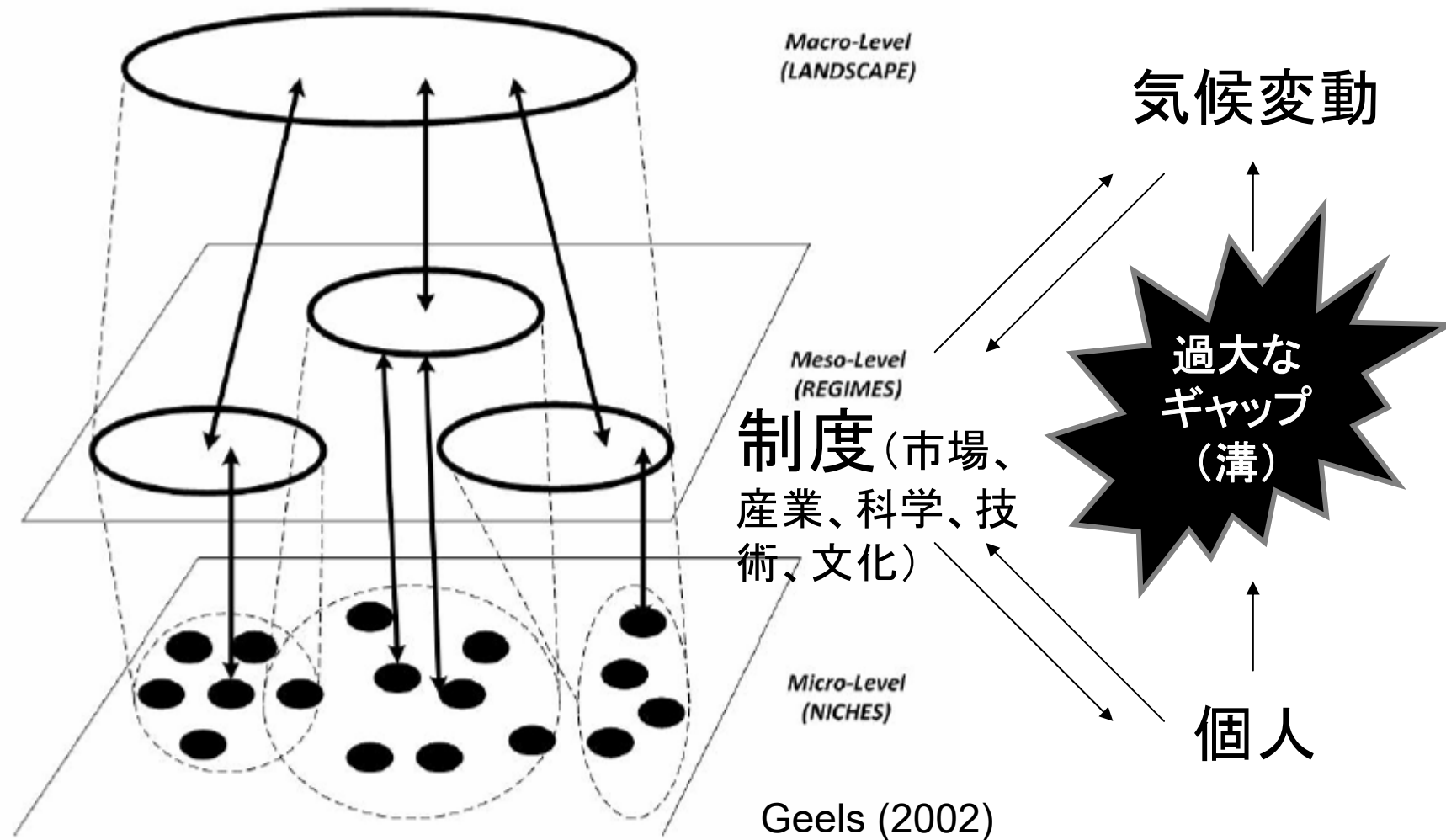


(3月社会実験の講評時に用いたスライド)

研究の背景

- 地球規模かつ超長期の課題へ対応するガバナンスの必要性
 - 地球温暖化／気候変動
 - 市場経済のグローバル化、産業構造の変化
 - 人口減少／高齢化
- 課題と個人の間に存在するギャップ
 - 個人どころか地域・国単独でも解決できない
 - 無力感、厭世観、冷笑主義、個人主義、情動主義
- ミニ・パブリックスへの参加が、地球規模かつ超長期の課題へ「合理的」に対応する有能感(Agency)の回復につながる？

Multi-Level Perspective (MLP)



分析の枠組み

レベル	表現の例	仮説	
		議論の初期	議論の終盤
マクロ	気候変動、国際的	与えられた課題	与えられた課題
メゾ	政策、税、産業構造	(言及が少ない) <u>無力感</u>	対応（媒介）手段としての言及
ミクロ	節電、節約	個人レベルでの対応	メゾレベルへのはたらきかけ

メゾレベルへの言及

- ワードカウント

自己紹介	評議(1)	評議(2)
6	33	211

対象とした単語:

政府、制度、システム、政策、法律、規制、産業、雇用、税、補助金、
教育、メディア、交通、インフラ、防災

Nvivoによるコーディング

Hokkaido-climate.nvp - NVivo

ファイル ホーム 作成 外部データ 分析 クエリ エクスプローラ レイアウト 表示

ナビゲーションビュー 検索 クイックコーディング ワークスペース

すべてドック すべてドック解除 すべて開じる

ドック ブックマーク レイアウト リスト表示 リストビュー

コーディングストライプ ハイライト

注釈 参照リンク 関係 リンク

ノード ノード行列 フレームワーク行列 分類 レポート

前次 リファレンス 色スキーム 視覚表示

ソース

内部ソース 外部ソース メモ フレームワーク行列

内部ソース

名前	ノード	リファレンス	作成日	作成者	変更日	変更者
01.ガイダンスと導入レクチャー	0	0	2019/08/13 16:42	MM	2019/08/13 16:42	MM
02-1.グループ別自己紹介(グループ1・岩崎F)	14	20	2019/08/13 16:42	MM	2019/08/13 16:42	MM
02-2.グループ別自己紹介(グループ2・池辺F)	20	61	2019/08/13 16:42	MM	2019/08/13 16:42	MM
02-3.グループ別自己紹介(グループ3・工藤F)	14	38	2019/08/13 16:42	MM	2019/08/13 16:42	MM
03.参考人ヒアリング 1	0	0	2019/08/13 16:42	MM	2019/08/13 16:42	MM
04.参考人ヒアリング2	0	0	2019/08/13 16:42	MM	2019/08/13 16:42	MM
05.参考人ヒアリング 3	0	0	2019/08/13 16:42	MM	2019/08/13 16:42	MM
06-1.グループ別評議1(グループ1・岩崎F)	31	92	2019/08/13 16:42	MM	2019/08/13 16:42	MM
06-2.グループ別評議1(グループ2・池辺F)	30	95	2019/08/13 16:42	MM	2019/08/13 16:42	MM

08-2-1.グループ別評議2前半 02-1.グループ別自己紹介(グループ1・岩崎F)

クリックして編集

コーディング密度

個人レベルの限界

企業での対応

身の周りの天気

マクロ

節電

コーディング密度

ミクロ

メソ

否定的自己言及

ガソリン使用抑制

勉強

場所 ノード 次でコード

MM 19 アイテム ノード: 14 リファレンス: 20 書き込み不可 行: 22 列: 32 100%

Nvivoによるコーディング

- マクロレベル

- 世界を考えると、やはり発展途上国ですとか小さな島々が影響を非常に受ける。そういったときに、不公平感ですけども、それを考えると、日本とか中国とかアメリカがちゃんと対策をしていかないと影響が出てくる

- メゾレベル

- 電気自動車というのは当然CO2排出がない。それで大気汚染がなくなるというメリットはありますねと。カーシェアリングによって個人が車両を買わなくていいよ、あるいは維持、車検を取らなくていいよとか検査に出さなくていいよとか、損害保険に入らなくていいね、あるいは車両に掛かる税金、こういったものも負担がなくなる。車庫もいらないねと。

- ミクロレベル

- 個人の意識がなければ、こういう温暖化の対応だとかにはつながっていかないのかなとすると、あまりにも経済効果だとかそういうのを求め過ぎると、要するに切りがないですね、人間の欲望というのは。どこかでやっぱり妥協しないといけないし、1度、立ち止まることも必要かなって。

Nvivoによるコーディング

- ミクロ→メゾ

- やっぱり市民が無関心だったら進まないですよ。市民がそれを支援していくということは、大事なことではないのかな。だから、市民に何ができるかというところから考えると、中小企業とか何かの転換で、大変な状態になるということとは分かりますよね。だから、そうならないように市民は支援していかないと、中小企業というのも、また成り立たないのではないかなと思うんだけどね。

- メゾ→ミクロ

- だから国がこうやって決めて道筋をつけてあげないと、やっぱり先ほど25年先を見ていたいという企業はというふうに言っていたんですけど、やっぱり国がある程度、何年先、こういう政策をするのでということを安心してあげないと、やっぱり企業も投資できないので...

メゾレベルへの言及

- ・Nvivoでコーディング（コーディング回数）

	自己紹介	評議(1)	評議(2)
マクロ	7 (18%)	12 (14%)	25 (14%)
メゾ	4 (11%)	24 (28%)	37 (28%)
ミクロ	17 (45%)	34 (40%)	39 (29%)

1 ↑
 2 (5%) ↓
 7 (18%) ↑
 4 (5%) ↓
 12 (14%) ↑
 12 (9%) ↓
 26 (20%) ↑

メゾレベルへの言及

・評議(1)+評議(2)のグループ間比較

	グループ1 気候変動の影響 認識	グループ2 脱炭素の実現可 能性	グループ3 生活の質への影 響
マクロ	19 (26%)	9 (8%)	3 (9%)
メゾ	14 (19%) ↑ 3 (4%)	40 (35%) ↑ 27 (24%)	7 (21%) ↑ 8 (24%)
ミクロ	2 (3%) ↓ 34 (47%)	13 (11%) ↓ 25 (22%)	1 (3%) ↓ 14 (42%)

大規模かつ超長期の課題に関するミニ・パブリックスにおけるメゾレベル(制度)への言及

- 3月の市民パネルでは、メゾレベルの言及が増える傾向が見られた
- グループ間で大きな差が見られ、各グループに与えられた課題の影響などが想定される
 - 必ずしも参加者が対話を通じて自ら「発見」したとはいえない
 - ✓ただしグループ1では、脱炭素手段の話題になりかけたところで、論点2への言及を自重する旨の発言も見られた

否定的な自己言及の回数

- ・減少傾向が見られる
- ・グループ1は、マクロ(気候変動)とミクロ(個人への影響)を直接関連づけさせる課題設定そのものに問題があった可能性あり

グループ	自己紹介	評議(1)	評議(2)
1	2	6	3
2	6	0	1
3	17	0	3

知見

- 大規模かつ超長期の課題を語るうえでの、メゾレベル(制度)の重要性



地球温暖化
気候変動



持続可能な脱炭素社会に向けて、
このレベルで転換を加速できるか？

(政策・経済・社会・技術・文化・慣習...)

「個々人でできることを、
あげていく」
「自分たちで国を動かす」



「循環していかないと」
「積極的に買うことで」

今回のイベント

あなたの
行動・選択

